

環境学習の段階的整理

「神奈川新しい環境学習をつくるネットワーク」で次のように環境学習の内容を段階的に整理してみました。必ずしもこの順番でやるのではなく平行してやるわけですが、環境学習のプログラムをつくる上で、どういうことを目指して、ここではどういうことをするか、というような展望を持つための参考になるのではないかと思います。

1、自然とふれあう体験

今の子供に不足している原初的体験を（追）体験する。

サツマイモづくり 焼きイモ大会、野の花の観察、ネイチャーゲーム、鳥をさばいて食べる、地域の人といっしょに活動するなど

2、基本的人間関係をつくる体験

これも今の子供に不足している原初的体験。民主主義のための基本的人間関係（雰囲気）をつくる体験で、日本の学校に欠落している部分。

セルフエスティーム（自尊感情）を育てる、緊張をほぐす、信頼・協力関係をつくる、人の意見を聞く、自分を表現する、ディスカッションなどのワークショップ、異年齢集団でのいろいろな体験、地域の人といっしょに活動するなど

3、自分のまわりの社会を知る

これも子供時代から体験する、自分のまわりの社会がだんだん広がっていく体験。

環境地図づくり、二酸化窒素判定、水質検査、ゴミ処理場・下水処理場見学、環境エネルギー館などの施設見学、ソフトエネルギー・ツアー、地域の人といっしょに活動するなど

4、基礎知識を持つ、自分の暮らしや生き方と社会の関係を考える

自分の暮らしや生き方と社会の関係を考えるための基礎知識。知識詰め込み型ではなく、自分の生活や生き方とリンクした、生きた知識となる方法が重要。

地球環境（温暖化・オゾン層・酸性雨・熱帯林・砂漠化・飢餓など）、南北問題、有害化学物質、合成洗剤、水問題、自然の循環、農業、添加物、農薬、ゴミ、大量消費、エネルギー、原子力、民主主義、人権問題、メディアリテラシーなど
科学面・社会面からの講義型授業、ビデオ・スライド、実験、ワークショップ、調査・課題研究、課題図書など

5、自分の意見を持つ、自分にできることを考える

民主主義の方法の基本的スキルを身につける。自分自身の行動が社会を良い方向に向けることができるということを伝えたい。

KJ法、ロールプレイゲーム、シミュレーションゲーム、デイベート、地域の人との共同作業など